

顧客の安全と地球の未来のために――

酒造業界で一步先行く環境意識



本社：京都市伏見区南浜町247番地
U R L：http://www.gekkeikan.co.jp/
設立：1927年5月15日
資本金：4億9,680万円
従業員数：589人



日本酒大手メーカー月桂冠。地球環境の保全に努めることは、製造業に携わる上での責務と考え、製造をはじめとするあらゆる面での徹底した省エネルギー・省資源の意識のもと、さまざまな取り組みを行っています。このように環境意識の高い同社を訪問、「顧客の安全」と「環境問題」について、現状と今後の展望についてお話をうかがいました。

本業を主体とした環境活動

多くの酒造会社の本社や酒蔵が建ち、酒どころとして知られる京都市伏見区。伏見はかつて「伏水」と書かれたほど水が豊かで、そのため古くから酒造りが盛んに行われてきました。月桂冠もこの地に本社を構える日本酒の大手メーカーです。

「酒造りは、“水”が命ですから、この地で酒造業を営む者たちもその変化に敏感でした。特に地下水の重要性は古くから着目され、伏見酒造組合は一丸となりその保存に努めてきたのです」と語るのは川戸章嗣・取締役 製造副本部長兼技術部長。その言葉の通り、同組合には、昭和35年に「伏見地区地下水調査研究委員会」が、伏見区の醸造技術者の集まりである伏見醸友会にも、昭和36年に「地下水保存委員会」が組織されました。現在も月桂冠を含め伏見の酒造会社にその精神は受け継がれ、地下水の保存活動は続いています。

酒造りはまさに命といえるこの「水」のほか、大きくは「米」と「麹こうじ」が必要です。この3つの要素から酒が生まれると同時に、「米ぬか」、「酒かす」、そして米を洗った後に出る洗米排水も生じます。月桂冠では、これらの副産物をいかに環境負荷が少ない形に変換するか、という問題に取り掛かりました。まず、「米ぬか」は、米油などの食品や飼料原料として他企業へ供給。「酒かす」の新たな用途として、有機肥料となるように研究を重ねました。「洗米排水」に至っては、微生物を利用した浄化作業を加えて排水。



取材当日、「食品業界の循環型製造」の実現について意見を交わしました。

以前は排水処理で生じる汚泥（微生物のかたまり）は焼却処分していましたが、平成11年、リサイクル堆肥として利用する道を開きました。

「酒かすからの有機肥料は、“米から生まれた有機”という点で利用者の安心感にも繋がっているようですね」と小島泰弘・技術部 技術課長が言葉を加えました。

環境負荷を減らす工夫

月桂冠では、このように製造段階の排出物の処理のほかにも、コジェネレーションシステムの導入や産業廃棄物の再資源化などにも積極的に取り組んでいます。1961年以来、四季を通じた酒造りを行うようになったため、エネルギー量はかなり増大しました。また、酒蔵は24時間稼働状態のため、排熱を利用するコジェネレーションシステムは、省エネルギー、環境負荷の軽減の観点から見ても不可欠だったのです。

さらに、産業廃棄物の再資源化率は、2004年には99.8%に至り、これ以上数字を上げることは難しいと思える状況となっています(下記グラフ参照)。これらの実績を上げるためには、全員の意識の向上も必要でした。

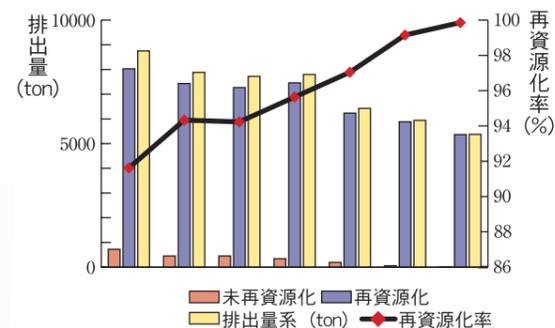
「再資源化には、ごみの分別が必要ですが、こういった地道なことは一人ひとりが意識していかないといけない」と大江研介・技術部工務課長は語ります。

また、酒造業は人の身体に直接取り入れられる食品を扱っています。その点モノづくりには確かさと厳しさをもとにした安全性が求められています。

「品質向上には、お客様の視点に立ってすべての活動を行うことが大切だと考えています。お客様からいただく声は励みであり、いつも現状を見つめ直すことの大切さを教わっているともいえますね」と田中伸治・広報室主査は語ってくれました。

顧客の安全と地球の未来を見据える月桂冠の取り組みは、確実に実を結び始めています。

産業廃棄物の排出量と再資源化率



JA京都中央と共同でリサイクル堆肥「JA活緑」として商品化。有機汚泥を生まれ変わらせている。

【環境データ】

環境方針

月桂冠では地球環境との調和を目指し、下記の5つの方針に基づき、環境マネジメント活動を推進しています。

① 環境保全レベルの向上
環境に関する法規制・条例・協定等を遵守して、環境保全レベルの向上に努めます。

② 環境対策を考慮した開発・設計
製品の開発・設計段階で環境負荷の少ない材料の採用等、積極的な環境対策に取り組み、より環境にやさしい製品を開発します。

③ 省エネルギー・省資源の推進
ボイラーをはじめとする熱機器等のエネルギー効率の改善に取り組むとともに、包装材料・紙類のリサイクル等により省資源を進めます。

④ 地域の自然環境との調和
自然に恵まれた素晴らしい環境のもとで生産活動を行っていることを十分に認識し、汚泥等の廃棄物の削減と工場の緑化を推進して、美しい地域環境作りに貢献します。

⑤ 環境啓蒙活動の展開
ひとりひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように環境教育の充実を図り、この環境方針を全従業員に周知します。

月桂冠は、継続的な環境配慮の取り組みによって、京都府の「エコ京都21」（京都・環境を守り育てる事業所等）の地球温暖化防止部門では「マイスター」、循環型社会形成部門では「アドバンス」に2005年度認定されています。